

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

Rotary
横浜旭ロータリークラブ



UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 RI会長／フランチエスコ・アレツツォ
RI.D2590ガバナー／大塚 正一
横浜旭RC会長／五十嵐 正



ガールスカウトとクリーン作戦



第12回 チャリティーコンサート



防災先進国イタリアに学ぶ講演会開催

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33／〒241-0836
TEL.080-1215-6668／FAX.045-362-0024
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3／4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2025 年 9 月 10 日 第 2 5 9 1 回 例 会 VOL.57 No. 8

- 司 会 SAA 北澤 正浩
- 開会点鐘 会長 五十嵐 正
- 斉 唱 我等の生業
SL 目黒 恵一

■出席報告

会員数	20名	本日の出席数	14名
本日の出席率	73.68%	修正出席率	78.95%

■本日の欠席者

中谷、宋、二宮、岡田、草柳

■オンライン出席者 福村

■ゲスト

赤星 悠介様（横浜銀行鶴ヶ峯支店、白根支店 副店長）
足立 祐貴様（横浜銀行鶴ヶ峯支店 課長）

■会長報告 五十嵐 正

皆さま、こんにちは。

本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、クラブで取り組んでおります「防災エコバッグ」制作の進捗についてご報告いたします。

先月の理事会で制作が承認され、その後、二宮さんとユザワヤで生地を購入してまいりました。当初のテーマは、「ベルトの脱着の方法」と「エコバッグに防災機能を追加すること」でした。ベルトの脱着についてはバックルを使用することにしました。また、防災機能をについ

ては、ユザワヤの担当者からは、キルティング生地には防災カーテン地を重ねる方法を提案いただきました。

しかし、就労支援事業所・銀河に確認したところ、この二種類の生地を縫い合わせるのは高度な技術が必要で、対応は難しいとのことでした。私自身も調べ直した結果、確かに難易度が高い方法であると分かりました。

では次に、既に防災加工済みの生地あるということで調べてみましたが、防災加工済みの生地は粉状の加工物が生地に含まれており、裁縫中に粉状の加工物が手に付着し、湿疹が出る可能性があることが判明しました。これでは利用者の方々に扱っていただくことは困難です。それでも、銀河さんでは試作して頂き、本日お持ちしました。持ち回りをご覧ください。やはり湿疹が出て、とても施設利用者では扱えませんとのことでした。

結果として現在、私たちの前には二つの選択肢があります。

1つは「シンプルに、就労支援事業所でも縫製できる方法を取ることに」。

もう1つは「多少難しくても、防災性能を最優先すること」。

北澤災害対策委員長とも相談し、まずは“地域の就労支援事業所と共に進める共生社会”と

いうクラブの目的を優先し、従来のキルティング生地を使った方法を選択することにしたしました。キルティングだけでも、防災頭巾としての頭部保護や座布団の代用といった役割は十分果たせます。

今後、防災性能があり、かつ縫製しやすい新しい生地が見つければ、改めて検討を進めてまいります。それまでは、まず「今できることを形にする」ことを大切にしていきたいと思います。

会員の皆さまには、こうした経緯をご理解いただき、周囲からご質問があった際にご説明いただければ幸いです。また、新たなご提案やアイデアがありましたら、ぜひお寄せください。

それでは、本日も有意義で楽しい例会となりますよう、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

■防災エコバック感想

田川 富男



防災バックを使用しての感想依頼を受けて報告させていただきます。

自分自身は普段からエコバックを持ち歩きますので、家内に利用感想をお願いしました。依頼パンフレットを見てサンプルバックで使用方法は即座に理解出来ましたが、取手が取れることに違和感が感じるとのことです。当然ですが、防災頭巾の脱落防止の意味は解りますとのことですが、緊急時に紐を結ぶことが出来るか不安を感じます。それでも、サンプル品だからでしょうかも知れませんが縫製に手作り感があり、利益を求める商業ベースで無いことがより良いと思います。

■ 2025 年 9 月号の紹介

市川 慎二

◎表紙

愛媛県には、多くのスポーツチームがあり、世界で活躍する選手がたくさんいるとして、愛媛オールスターズとして表紙になっております。

◎横組み

表紙をめくると参加してよかったポリオ根絶活動のエピソード募集。

・ 3P

RI 会長からのメッセージが掲載されています。今月は「基本的教育と識字率向上月間」としていかに持続していくこと、インクルーシブで、公平な教育、人を尊厳し、勉学ができる環境が大切かが書かれています。

会長テーマでもある「よいことのために手を取りあおう」には、クラブ同士、パートナー、組織、地域社会と、手を取りあうことで、継続的な活動、参加者も含めて基盤の拡大に繋がるといった内容は、当クラブのチャリコンや3カ年計画も同様にして、実行し成功に繋がっていくのだろうと感じました。

・ 5P

特集「いきなり舞台へ」

マリオ氏が突然辞任し、RI 理事会がアレツォ氏に任命された突然のできごとエピソードから始まり、家族とのこと、矯正歯科医として仕事をする中で、まず患者を理解しようとしてきたこと、クラブ会長になるにも、吃音から人前で話すなど消極的だったところから、ステージで話すようになる、今に至るまでが書かれています。アレツォ氏が支持されるのには、人の心を動かす人生や、謙虚な人柄、力強い思いを持ち合わせているからだと思いました。

・ 12P

「友」を読まずに損をしていませんか？

地区内に友誌委員会を設置した、千葉県第2790地区の3人の方が、ロータリーの友の価値を見直して、もっと活用してみようといったことや、友地区代表委員からの一言、18Pには

アンケートが掲載されています。読まない理由に時間がないといった答えが63%もありますが、20分ほどあれば読み終わりますので是非お読みください。

●縦組み

・2P

「生成AIの全貌」ロボットと共存する世界を夢見て急速に成長しているAIが、今後どのように進展し、社会で応用されていくかといった内容でした。

AI研究者である、小平暁雄氏（こだい あきお）は「ドラえもん」といった、人とロボットが共存する世界を夢見て、AIについて学んできたことについてや、今までは、画像を見せた時事前に読み込ませたカテゴリーの、何に近いかで判別していたものが、最近では、文字を入力しただけで、この世にないものの画像を生成できる、文章も要約も、音楽さえ生み出すことができる。こうしたAIの力で、空港や駅などで案内が必要であれば、人の代わりにAIが答えるといったサービスが広がってくると考えられる。映像も、コカ・コーラが作ったCMには、建物や車、雪の降る景色、動物の毛が揺れる様子まで、すべて生成AIによって作られている。すごく高度な知的労働をしてくれる。日本語から英語への翻訳（ほんやく）など、専門知識が必要だった分野が、AIに代替されているように、人に依頼するのではなく、AIに任せてみようとなってきた。専門技術の民主化とも捉えられるが、一方で、大事に培われてきた技術が簡単に複製され、仕事を奪われてしまう、自然と保たれていたコミュニティごとの秩序を無視して、部外者がAIで領域に入れてしまうといった、負の側面との難しさを話されています。

・14P

友愛の広場「娘と共に歩むロータリー人生」

2歳の娘さんがいるシングルマザーで、ロータリーに入会。子どもと一緒に参加するクラブの活動の様子や、子どもが一人のロータリアンのように参加している中、ロータリーライフを

楽しんでいるのだと心が温くなりました。

・感想

今月のロータリーの友を読んで、最後の話もそうですが、やっぱりロータリー活動は、どんなにAIが進化しても、人と人との繋がりの中、感情も、気持ちも、表情も感じながら人が人とししか行えない尊いものだなと思いながら、最初のRI会長のメッセージである人々が共に「よいことのために手を取りあいましょう」を見直していました。

■ニコニコ BOX

佐藤 利明・真吾／父子ともどもなかなか例会に出席することが出来ず、申し訳ございません。横浜銀行足立さん、卓話楽しみです。

関口 大樹／横浜銀行赤星様、足立様、本日はお越しいただきありがとうございます。卓話、よろしくお願い致します。

北澤 正浩／横浜銀行鶴ヶ峯支店、足立課長様、本日はようこそいらっしゃいました。本日の卓話、よろしくお願い致します。

新川 尚／足立様、本日の卓話よろしくお願い致します。

安藤 公一／足立様、本日の卓話宜しく願い致します。

五十嵐 正／横浜銀行足立課長、本日のお話楽しみにしております。よろしくお願い致します。

中島 徹／横浜銀行鶴ヶ峯支店、足立課長、本日はようこそいらっしゃいました。よろしくお願い致します。

関澤 信吾／横浜銀行足立様、本日はよろしくお願い致します。

■卓話「民事信託」について 足立 祐貴様

本日の卓話は、銀行で個人営業を担当されている講師より、「民事信託」についてご紹介いただきました。

現代は医療の発展により長生きが可能になった一方で、認知症などにより判断能力が低下した場合の資産管理のリスクが増しています。これまでは「成年後見制度」が一般的な対策でしたが、裁判所の関与が必要で、家族の意思を反

横浜銀行でご紹介できる解決策の一例

「民事信託」で事前の対策が可能です

民事信託の活用事例（民事信託×融資）



るようにしておけば、本人が判断できなくなっても資産を円滑に活用できます。詐欺防止の観点からも有効です。

また不動産についても、所有者が契約や売買手続を行えなくなるリスクを避けるため、信託に組み入れておく方法が有効です。登記に「信託財産」と記載することで、家族が代理して手続を進められるようになります。さらに、信託契約には遺言

映しにくい、手続きが煩雑、費用がかかるなどの課題がありました。

そこで近年注目されているのが「民事信託（家族信託）」です。これは本人が元気なうちに家族と信託契約を結び、資産の管理や運用を託す仕組みです。例えば、信託専用口座に預金を移し、家族が日常の生活費や介護費用に充てられ

の機能を付与でき、相続発生時に誰へ財産を承継させるか指定できるほか、次世代・その次まで継承先を決めておくことも可能です。

もちろん、契約には司法書士や専門家の関与、登記費用や信託報酬などのコストが伴いますが、成年後見制度と比べて柔軟性が高く、家族の意思を反映しやすいのが大きな特徴です。

本日の講師は、民事信託が高齢社会において資産管理の新しい選択肢となり、家族の負担を減らし安心につながるものであると解説されました。ロータリアンとしても、自身や家族の将来を考える上で有意義な示唆をいただいた卓話となりました。（文責 五十嵐）

■次回例会 9/24 休会

10/1 米山記念館訪問

集合時間 9：15 集合場所 JA 前

